

経営分析論③

財務諸表の意味と役割

財務諸表の意味と役割

- 企業内容の開示制度
 - **会社法**による開示制度：**利害関係者の保護**
決算公告を通じて、貸借対照表を官報やインターネット上で公開することが義務付けられている。
→大会社は損益計算書も決算公告に含める。
 - **金融商品取引法**による開示制度：**投資家に向けた情報公開**
上場会社は**有価証券報告書**の公開が義務付けられている。
→具体例は後程。
- ☞ 根拠法の違いにより呼び方が異なる。
一般的にはこれらを合わせて財務諸表と呼ぶことが多い。

財務諸表の意味と役割

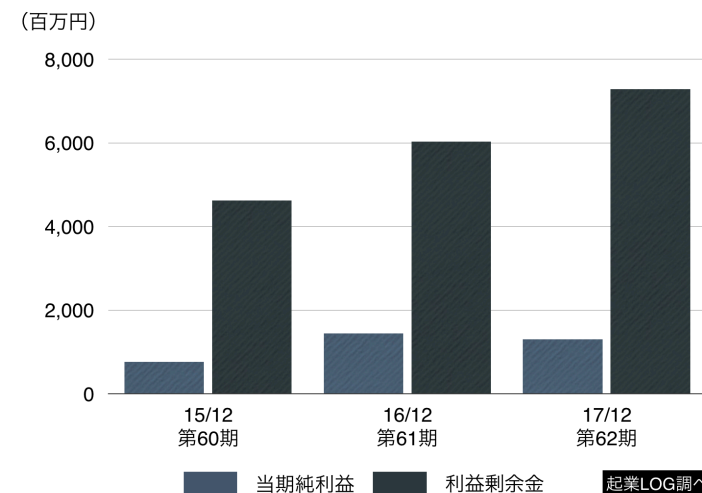
- こんな企業の決算公告もあります。

第 61 期決算公告 平成29年 4月17日 広島市南区南蟹屋二丁目3番1号 株式会社広島東洋カーブ 代表取締役社長 松田 元 貸借対照表の要旨(平成28年12月31日現在)		
科 目	金額(百万円)	
資の産部	流動資産	6,116
	固定資産	5,540
	資産合計	11,657
負純債資産及び部	流動負債	4,694
	固定負債	525
	負債合計	5,220
	株主資本	6,437
	資本金	324
	利益剰余金	6,113
	利益準備金	81
その他利益剰余金	6,032	
	(うち当期純利益)	(1,446)
	純資産合計	6,437
	負債・純資産合計	11,657

第 62 期決算公告 平成30年 4月13日 広島市南区南蟹屋二丁目3番1号 株式会社広島東洋カーブ 代表取締役社長 松田 元 貸借対照表の要旨(平成29年12月31日現在)		
科 目	金額(百万円)	
資の産部	流動資産	5,071
	固定資産	6,857
	資産合計	11,928
負純債資産及び部	流動負債	3,415
	固定負債	817
	負債合計	4,233
	株主資本	7,695
	資本金	324
	利益剰余金	7,371
	利益準備金	81
その他利益剰余金	7,290	
	(うち当期純利益)	(1,297)
	純資産合計	7,695
	負債・純資産合計	11,928

財務諸表の意味と役割

- 極めて好調な広島東洋カーブの経営状態



財務諸表の意味と役割

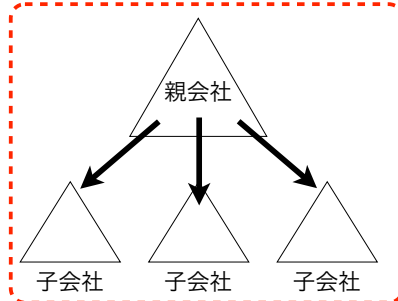
- 財務データの入手方法
 - 各企業のHP
 ZOZO や サントリーホールディングスのHP
 理念：会社案内
 業績・財務ハイライト（財務情報：IR情報）
 有価証券報告書の開示内容
 企業の概況：沿革、事業の内容 など
 事業の概況：業績等の概要、対処すべき課題、リスク など
 →重要！：会社の経営戦略が読み取れる。
 設備の状況：設備投資等の概要、設備の新設、除却の計画
 提出会社の状況：株式等の状況
 経理の状況：財務諸表
 - EDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp>)
 有価証券報告書を電子情報（ネット上）で公開している。

財務諸表の意味と役割

- 財務諸表の構造（各書類の相互関係）
 各法に基づき公開が義務付けられている財務諸表のうち、中核になるものは以下の4つである。
 - ①貸借対照表：会社のある時点における財政状態を表す。
 - ②損益計算書：会社のある一定期間の経営成績を表す。
 - ③キャッシュ・フロー計算書：
 会計期間における資金の増減＝収入と支出を表す。
 - ④株主資本等変動計算書：
 貸借対照表の「純資産の部」の増減を表す。
 ☞ 4つの財務諸表はそれぞれ関連付けられている。

財務諸表の意味と役割

- 個別財務諸表と連結財務諸表
 - 個別財務諸表：親会社あるいは子会社など、ある企業単独の財務諸表
 - 連結財務諸表：親会社を中心に子会社を含む企業集団全体の財務諸表
 →現在の会計制度では、連結財務諸表が主、個別財務諸表が従の関係になっている。

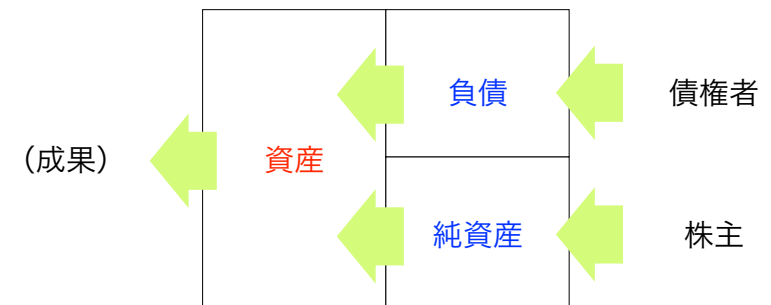


個別財務諸表
それぞれの会社の財務諸表

連結財務諸表
グループ全体の財務諸表

貸借対照表の仕組み

- 貸借対照表（Balance Sheet：BS）の基本構造



資産：将来、企業にキャッシュをもたらす**経済的価値**
 →企業に投下された資金の具体的な存在形態

負債：将来、企業が**キャッシュを支払う義務**
 →企業資産に対する債権者の持分

純資産：企業所有者の**出資額**と利益の**留保額**
 →企業資産に対する企業所有者（株主）の持分

貸借対照表の仕組み

- 貸借対照表（Balance Sheet：BS）の基本構造

資産の部	流動資産	当座資産	仕入債務	流動負債	負債の部
		棚卸資産	短期借入金		
	固定資産	有形固定資産	長期借入金 社債	固定負債	
			資本金	資本金	
		無形固定資産	資本準備金	資本剰余金	純資産の部
	その他の資本剰余金				
	投資その他の資産	利益準備金	利益剰余金		
		その他の利益剰余金			
	繰延資産	繰延資産	評価・換算差額	その他	その他の純資産
			新株予約権		

貸借対照表の仕組み

- 流動・固定の分類基準（p.17）：

資産は**流動資産**と**固定資産**に分類される。

流動資産：短期のうちに現金化する資産

固定資産：現金化するのに長期を要する資産

→どのようにして区分するのか？

☞ **正常営業循環基準**と**1年基準**

正常営業循環基準

企業の本業である「仕入→製造→販売→代金回収」の過程にある資産はすべて流動資産にする。

1年基準

決算日の翌日から1年以内に現金化する資産 → 流動資産

1年を超えて現金化する資産 → 固定資産

貸借対照表の仕組み

- 流動資産の分類

当座資産：現金あるいはほぼ現金になることが確実な資産

棚卸資産：そのままの形、または製造の後に販売することを目的として保有する資産

- 固定資産の分類：有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産

有形固定資産：長期間使用する企業の本業で使用される資産

例) 土地、建物、機械装置、車両運搬具

無形固定資産：形のない資産だが、本業を支える資産

例) 特許権

投資その他の資産：投資を目的として長期保有する有価証券や資産

例) 子会社株式、関係会社株式、その他有価証券

- 繰延資産

貸借対照表の仕組み

- 流動負債と固定負債：負債も**流動負債**と**固定負債**に分類される。

流動負債：短期（1年以内）のうちに返済義務が生じる負債

例) 買掛金、短期借入金

固定負債：1年を超えて支払期日が到来する負債

例) 長期借入金、社債

- 純資産と株主資本（p.20）

①**株主の出資**（資本金＋資本剰余金）

：資本金、資本準備金、その他の資本剰余金

②**利益の留保**（利益剰余金）：利益準備金、その他の利益剰余金

③**その他の純資産**：評価・換算差額、新株予約権

損益計算書のしくみ

- 利益の意味：会計学的には純資産（資本）の増加である。
→ 「利益＝収益（売上）－費用」ではないの？
- 簡単な例で簿記の手続きを復習してみよう。
例題）福大商店は2018年4月1日に設立され、4月30日までに以下のような取引を行った。それぞれの取引の仕訳を行い、下記の図（貸借対照表と損益計算書）に適切な数字を当てはめよう。

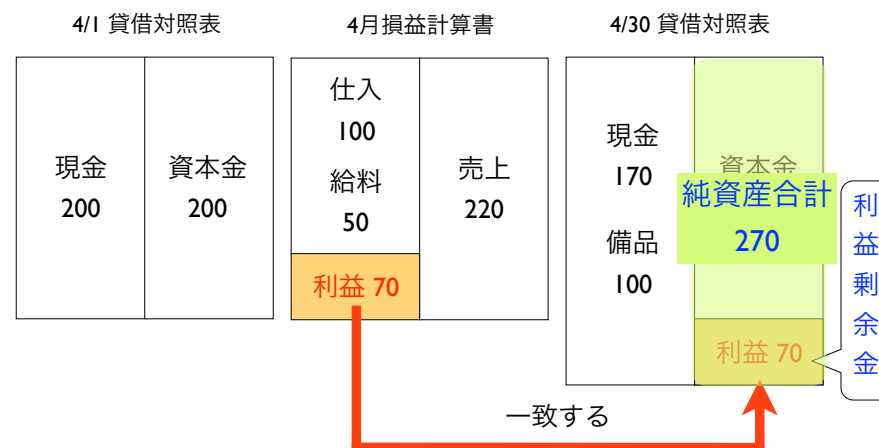
損益計算書のしくみ

- 4/1 福大商店は資本金200円で設立された。
全て現金で払い込まれている。
仕訳) 現金 (資産) 200 / 資本金 (純資産) 200
- 4/5 福大商店は商売を始めるために什器（備品）を現金100円で購入した。
仕訳) 備品 (資産) 100 / 現金 (資産) 100
- 4/10 福大商店は商品を現金100円で仕入れた。
仕訳は「仕入」勘定で行う。
仕訳) 仕入 (費用) 100 / 現金 (資産) 100
- 4/15 福大商店は顧客Aに対して仕入れた50円分の商品を100円で販売した。仕訳は「売上」で行う。
仕訳) 現金 (資産) 100 / 売上 (収益) 100

損益計算書のしくみ

- 4/20 福大商店は顧客Bに対して仕入れた50円分の商品を120円で販売した。仕訳は「売上」で行う。
仕訳) 現金 (資産) 120 / 売上 (収益) 120
- 4/25 福大商店は従業員αに給料として50円支払った。
仕訳) 給料 (費用) 50 / 現金 (資産) 50
- 4/30 4月末日を迎えたので、財務諸表を作成した。

損益計算書のしくみ

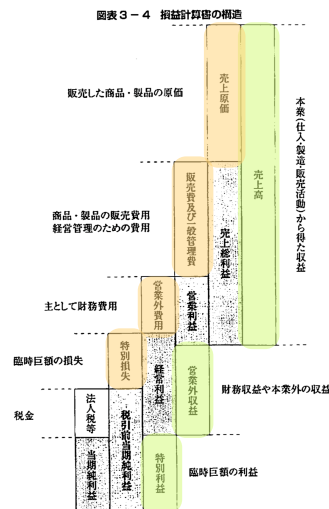


資本（資本金，資本剰余金）や評価・換算差額の変動が無ければ、
当期純利益と純資産（株主資本）の増加額は一致する。

損益計算書のしくみ

● 損益計算書の構造

売上高	101,576
売上原価	27,649
売上総利益	73,927
販売費及び一般管理費	67,596
営業利益	6,330
営業外収益	343
営業外費用	88
経常利益	6,585
特別利益	165
特別損失	4,208
税引前当期純利益	2,542
当期純利益	1,147



損益計算書のしくみ

● 報告式の損益計算書

簿記で学習した損益計算書とは異なり、公表される財務諸表では読みやすい報告式の損益計算書が作成される。

● 収益・費用・利益の種類

収益の意味と種類：企業が事業活動を通じて獲得した経済的価値

売上高：本業（仕入・製造・販売活動）から得た収益

営業外収益：本業以外から得た収益，主に財務収益から得た収益

特別利益：本業でも本業以外でもなく，臨時的に得た収益

費用の意味と種類：収益を獲得するために消費した経済的価値

売上原価：販売した商品・製品の原価

販売費及び一般管理費：商品・製品の販売費用，経営管理のための費用

営業外費用：主たる営業活動以外で生じる費用

特別損失：臨時的に失われた損失

損益計算書のしくみ

● 収益・費用・利益の種類（つづき）

利益の意味と種類

売上総利益：売上高と売上原価の差額で，粗利益と呼ばれることもある。

営業利益：本業から得た利益

経常利益：経常的かつ正常な企業活動から得た利益

→「経常的」とはどういうことか？

税引前当期純利益：経常利益に特別利益・特別損失を加減した金額で，法人税等の税金はこの利益額に税率を乗じた金額をもとに求められる。

当期純利益：すべての収益からすべての費用を控除した後に，企業の所有者の手元に残る金額

包括利益という考え方

応用論点なので今すぐ覚える必要はない。考え方を話します。